



全国森林  
ボランティア探訪  
Vol.46

# NPO法人 名古屋シティ・ フォレスター倶楽部



9月に行った技術研修会にて

名古屋シティ・フォレスター倶楽部は中部森林管理局の名古屋シティ・フォレスター事業に参加していたメンバーが中心となり、平成12年にスタートしました。

会の発足以来「緑を守り、育てる」をモットーに、愛知県内の国有林、民有林の整備活動を続ける中で、平成23年にはNPO法人として正式に認可されました。

## 森林づくりで社会貢献を

名古屋シティ・フォレスター倶楽部は「定光寺自然休養林」(愛知県北部)をメインフィールドに「段戸ふれあいの森」(愛知県東部)、「みろくの森」(愛知県春日井市)を倶楽部の森として、森林整備、林内歩道の整備を行っています。

発足時は、12名だった会員数も現在では55名までに増えました。会員の多くは、定年退職後に「何か社会のためにできることはないか」という思いから入会した人や名古屋シティ・フォレスター事業への参加がきっかけで、「もつと積極的に森林整備に関わりたい」との思いから倶楽部に参加した人が多く、会員全員が森林整備活動に意欲的に取り組んでいます。中には、「頑

張ってくれている若い世代のためにも、社会貢献として森林ボランティアをすることで、子どもたちに美しい森を残していきたい。自分たちが育てた木が子どもたちが家を建てる時の建材になれば」という想いで活動している会員もいます。

また、会員のほとんどが森林内活動初心者で、会の活動を通して技術を習得するとともに、



チェーンソー講習会



【里山学校】川遊びの様子





【段戸ふれあいの森】植林時と現在の様子



NPO 法人 名古屋シティ・フォレスター倶楽部

- 会員数 55人
- 活動フィールド 定光寺自然休養林、段戸国有林など
- ホームページ <http://www.ncfc.jp/>

段戸国有林では、平成10年、倶楽部が正式に発足する以前に集中して作業しています。野鳥が多いため、繁殖時期を避け、11〜3月の間の短い期間に維持を目的に県有林4haの整備を行っています。みろくの森は人気の「みろくの森」では、景観

「定光寺自然休養林」は平成13年に中部森林管理局と協定を結び、「ふれあいの森」として整備を始めました。当初は15haだったフィールドも、現在では24・8haまでに広がり、林内整備のほか、近隣住民が訪れやすく、市民の憩いの場となるように林内の約1・4kmを「やすらぎの道」として3年かけて整備したほか、間伐材を活用した案内看板やベンチなどを設置しました。

ハイキングスポットとしても

チェーンソーを使った作業なども多いので、安全に作業を行うための講習会にも参加しています。

### 木や土と密接にふれあうフィールド活動

「定光寺自然休養林」

皆伐された約2・63haの土地にヒノキ約7,000本を植林しました。その後、中部森林管理局と協定を結び、「段戸ふれあいの森」として、ヒノキの成長を促すための「下刈り」、「裾枝払い」や「ツル切り」などの手入れを行った結果、植林から13年たった現在では樹高3m、直径10cmまで成長しました。以前は高台から眺めると植林地全体を見渡すことができましたが、今では全体を見渡せないほどにまで大きく育ちました。今後は、木の生育具合に合わせて、2年後くらいから「除伐」をはじめ、15年後には「間伐」を行っていくと考えています。植林することから始めた森が、ぐんぐんと成長していくことが森への愛着につながり、会員のモチベーションにもなっています。

### 森の豊かさを伝えるために

フィールド活動のほかには山の所有者と協定を結び整備を行っている豊田市新盛地区の民有林で、年2回、森とふれあう里山学校を開催しています。今

年の10月で7回目を迎えたこの里山学校では、森の探検や川遊び、竹を使った流しそうめん、竹食器での料理体験などができます。そのほかにも、名古屋シティ・フォレスター事業への参加や、企業の森などの支援も行っています。

### 今後の課題

今後は、さらに民有林の整備にも力をいれていきたいと考えています。そのためには、山の所有者から信頼され、作業協定をどのように結んでいくかが課題になります。ボランティア側からの積極的なアプローチはもちろん、山の所有者にも「自然を守る」という意識を持ってもらい、互いに協力しあうことが大切になります。

また、現在のメンバーは定年後にボランティアを始めた人がほとんどなので、今後は若い人たちにも積極的に参加してもらい、倶楽部の中心となって「緑を守り、育てる」活動を次代の子どもたちに引き継いでほしいと考えています。

